

# 我が国周辺漁業資源調査\*

武田保幸・渡辺勇二郎・竹内淳一・  
中地良樹・向野幹生

## 目 的

国連海洋法条約批准に伴い当水域内の漁業資源を科学的根拠に基づいて資源評価し、その維持培養および高度利用の推進に資するため、必要な基礎資料を整備することを目的とする。本県沿岸では、シラス期を含むマイワシ、カタクチイワシ、ウルメイワシならびにマサバ、ゴマサバ、マアジ、サワラ、マダイ、ヒラメ、トラフグ、イカナゴ、タチウオを指定魚種として調査を行った。

## 方 法

### 1 漁獲成績報告書

中型まき網漁業（22統、毎月1回報告、2そうまき網は1月を除く）の実働船1統毎の魚種別漁獲量・努力量を漁獲成績報告書により調査した。なお、水産庁への報告は県水産課から近畿農政局和歌山統計情報事務所をとおして行われた。

### 2 標本船調査

外海浮魚について中型まき網漁業を対象にして、標本船の操業位置、操業回数、網次別漁獲量、魚種別混獲率を操業日誌と聞き取りによって調査した。標本漁船の統数と調査期間は次のとおりである。

魚 協	漁業形態	統 数	調 査 期 間
比 井 崎	2そうまき	2	4～12月、2～3月
南 部 町	1そうまき	1	4～12月
田 辺	2そうまき	1	4～12月、2～3月

### 3 漁獲量・努力量調査

魚種ごとに月別の漁獲量・努力量を調査した。内海関係の調査内容は次のとおりである。

魚 種	漁 種	対象漁協	対象期間
シラス	パッチ網	西 脇	4～3月
		箕 島 町	〃
		栖 原	〃
サワラ	曳縄、釣縄	加 太	4～3月
		御 坊 市	10～3月
マダイ	釣	加 太	4～3月
		雑 賀 崎	〃
ヒラメ	小型底曳網	湯浅中央	〃
	刺 網	比 井 崎	〃
	〃	南 部 町	〃
トラフグ	延 縄	戸 坂	〃
	〃	印 南 町	〃
イカナゴ タチウオ	パッチ網 小型底曳網	箕 島 町	2～3月
		箕 島 町	〃

\* 漁業資源調査事業費による

なお、雑賀崎漁協のマダイ漁獲量については、資源管理事業関係で当水試開発部が実施している資料を参考にした。

外海底魚は外海マダイを対象にし、印南町、田辺、白浜、串本の4漁協の月別漁獲量を調査した。

#### 4 生物測定調査

稚仔魚以外の幼魚・未成魚・成魚については、県下漁協市場において、担当者が体長測定を行い、また、適宜標本魚を買い上げて魚体精密測定を行った。イワシ類シラスについては、漁協の市場担当者に採集・保存を依頼し、実験室で魚種別の湿重量、全長、体重を測定した。1996年4月～1997年3月に市場調査を実施した漁協別の回数は次のとおりである（カッコ内は魚体精密測定の回数）。

マイワシ：南部町1回、串本3回、太地1回（1）、宇久井12回（3）

マサバ：箕島町3回（2）、御坊市3回（2）、南部町3回、田辺9回（3）、串本1回、太地3回、宇久井17回

ゴマサバ：御坊市1回、南部町3回、田辺5回（1）、串本8回（1）、太地3回、宇久井15回

マアジ：箕島町1回、御坊市2回、南部町1回、田辺4回（1）、串本2回、太地7回、宇久井16回（2）

マイワシシラス：西脇13回（13）、箕島町16回（16）、栖原10回（10）

カタクチイワシシラス：西脇25回（25）、箕島町15回（15）、栖原18回（18）

また、内海マダイについては加太、雑賀崎漁協の年齢別漁獲尾数、外海マダイについては串本漁協の月別体重組成を調査した。内海マダイについては当水産試験場開発部が担当している資源管理事業関係の資料を参考にした。

#### 5 魚卵・稚仔量調査

魚卵・稚仔の採集調査は調査船「わかやま」（88.82トン、D750PS、1996年4～9月）および「きのくに」（98.12トン、D1200PS、1996年11～1997年3月）の運航により、月例の海洋観測と並行して2種類の採集ネットを使用して行った。改良型ノルパック（LNP）ネットは150m鉛直曳き、新型稚魚ネットは船速2ノット表層5分曳きで行った。調査期間と採集本数は次のとおりである。

##### 1）魚卵稚仔量集中調査（外海）

沿岸定線（ナー1-1）：11ヶ月11回、LNP264本、新型稚魚ネット88本

沖合定線（L線）：8ヶ月8回、LNP40本、新型稚魚ネット40本

##### 2）卵・稚仔魚群分布集中調査（内海）

浅海定線（ナーセー1）：11ヶ月11回、LNP198本、新型稚魚ネット44本

## 結 果

前述の調査項目のうち、漁獲成績報告書については、県水産課から近畿農政局和歌山統計情報事務所に報告し、その他の項目に関する調査結果は内海関係を水産庁南西海区水産研究所資源管理部（広島県佐伯郡大野町）、外海関係を南西海区水産研究所外海調査研究部（高知市）に報告した。

水産研究所では各県の調査結果を基に、各魚種について系群別の資源評価を行った。その評価結果は内海関係の8魚種（マイワシ、カタクチイワシ、サワラ、マダイ、ヒラメ、トラフグ、イカナゴ、タチウオ）については平成8年度第2回瀬戸内海水産資源担当者会議（平成9年3月、広島市）、外

海関係の11魚種（マイワシ、カタクチイワシ、ウルメイワシ、マサバ、ゴマサバ、マアジ、ブリ、ヤリイカ、ニギス、エソ類、ウマヅラハギ）については平成8年度南西外海ブロック我が国周辺漁業資源評価会議（平成9年3月、高知市）において提案・議論され、水産研究所全体の資源評価会議（平成9年6月、横浜市）でとりまとめた後、公表された。